

## 第 22 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2017 年 06 月 30 日(金)08:30～10:50

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

### 1. 戦略プラン 2017 について

NDF 事務局より、戦略プラン 2017 について、前回以後の状況変化等を踏まえつつ、説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- プロジェクトマネジメント機能の強化について、陸側遮水壁は比較的シンプルなプロジェクトではあったが、国レベルの一体感があまり出ていなかったように思う。今後行う廃炉プロジェクトははるかに複雑かつ重層的な内容を有するものになり得ること、また、多様な分野のエンジニアリングが関与するものであることを踏まえると、TMI であったような規制も含めたワンチーム体制で推進することも選択肢に入れてプロジェクトマネジメント体制の在り方について考えていくことが重要である。さらに、陸側遮水壁タスクフォースに出席している専門家の議論が、これまで以上に規制の議論にリンクするような仕組みも考える必要がある。
- 中長期ロードマップとの関係やプロジェクト全体の所要リソースにおける位置づけについても、記載があるとよい。
- 廃炉資金の確保については、法制度とは別に、これのマネジメントを的確に行うことが重要であるからその対応方針も見えるのが望ましい。
- 不確実性があるため柔軟な対応が必要とあるが、そのマネジメント体制、例えば、柔軟な対応をする場合の手順や、どのセクションがリードするのかというあたりが分かりにくい。
- 最後の章に社会との関係についての記載があるが、実際にどう分かりやすく説明していくつもりなのか具体的に見えない。技術者以外の人々の理解を得るためには、実際にどう説明するかの実践的なトレーニングをきちんと行い、会話が成立するように準備することが必要である。
- SED 指標を用いたリスクマップや現在安定的にあるものの将来において変化する懸念である中期・長期のリスクを特定して、これをどう管理していくかについて適切にステークホルダーに説明していくことが必要である。
- 福島第一原子力発電所の廃炉のような、非常に不確実性のある対象に取り掛かりながら、そこで分かったことで又次の計画を考えていくというアプローチは、社会学でいうところのピースミールエンジニアリング（漸次的な社会改良）のコンセプトである。その哲学的なところを、責任体制やステークホルダーへの影響の管理、ある状況での判断をどのように行うかということを描いた文章の前段に、記載することを望む。

海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- 日本において、もし一般的な、共通のリスクに関する文書がないのであれば、そういった共通文書を作

ることも一つの手段であり、そういった方法で一般人の理解を促すことが非常に大事である。これは世界中で重要視されていることだが、技術的な文書にとどめず一般的に書き下すことが大事であり、不確実性のある作業の前に伝え、仮説であること、リファインしていくことを適切に説明すべきである。

- 廃炉がどう進むのか、時間軸との関係性をもう少し明確にすべきである。ストーリー的に順番・流れを説明し目的やゴールのようなものを示していくことが今後必要となる。
- プロジェクトマネジメントに言及するといった新しいフェーズ、すなわち、予算や期間、技術的な内容、エンジニアリングを同じテーブルで議論をするべき局面に入ってきていると感じている。そういったものの相互の関係性を持ちながら、住民に対する説明が行われ議論されることが定着していくことが望ましい。また、リスクというものは、放射線に関するものだけではなく、プロジェクトリスクや風評被害のリスクなど様々のものがあること、プロジェクトが成長し、複雑化していくため、そうしたリスクが生まれ、管理する必要が生じる、そういう過程にあることを理解すべきである。
- 放射性廃棄物の最終処分についての議論は重要である。固体廃棄物の管理から処分は一気通貫で議論することが必要であり、ここでは、性状把握・分類・保管管理のあり方等の議論も必要になってくる。それらについて技術的な仕様がないと、適切な分類すら行えず、その結果、パッケージングのやり直しという可能性も出てきてしまう。自分の国では、そのやり直しによって非常にコストが増えてしまったという経験もあるため、ある程度急ぐことも必要である。

## 2. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力より、福島第一原子力発電所の状況について、汚染水対策である建屋滞留水処理の進捗、1～3号機の使用済燃料取り出しに向けた準備状況の進捗や1・2号機排気等の解体計画、燃料デブリ取り出しに向けた1号機の内部調査の線量分析や堆積物の各種分析の状況、3号機内部調査の具体的な内容、廃棄物保管管理の計画や見通し、また労働環境改善の取組として特にヘリポートの設置完了等について報告があった。

廃炉等技術委員、海外特別委員からの主な意見は以下の通り。

- 燃料デブリ取り出し作業を進めていくためには、大型の炉内構造物を取り出した後にどうするか、そういったものを取り出すためのクレーンなどをどう配置するか、または燃料デブリを取り出した後の収納・輸送・保管等についても、次ステップとして説明が必要となる事項である。いずれもサイト全体のリスク低減につながる方向で、しっかりと検討することを望む。

## 3. その他議題

NDF事務局より、以下の事項等について説明があった。

- NDF 廃炉支援部門の最近の活動実績
- 廃炉等技術委員会等の主要スケジュール